

鏡川流域パートナーシップだより No.272 R8.3.17



鏡川流域
パートナーシップ
KAGAMIKAWA LOCAL AREA PARTNERSHIP

新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

北海道から、鏡川流域に関わり続ける日々

3月1日(日)の午後に、北海道からお越しの「ぼっちり」ユーザー「あいのまま」さんと高野寛未さんが、高知市土佐山の嫁石梅まつりを訪れました。

土佐山の釣り名人こと山中晶一さんの案内で、オーベルジュ土佐山を設立した地元団体「中川をよくする会」の鎌倉寛光さんのもとを訪れたり、満開の梅に癒されたりと、鏡川上流域の自然や人に触れるひとときを過ごしました^^



2月28日(土)の「かがみがわ大交流会 2026」と3月1日(日)午前中の「南嶺の里山を散策して『アロマウォーター』を作ろう」に参加したあと、山中さんとともに嫁石梅祭りの会場に向かったお2人。連日のイベント参加、ありがとうございます！

お2人を案内する直前まで鏡川で釣りをしていた山中さん。アメゴ漁解禁日で張り切っていました。^^



高野さんは、北海道でIT企業に務めながら、先日まで大学院に通い、「幸福に満ちた地域社会の創出」について研究を行っていました。令和7年7月に、大学院の修士論文の事例調査のため、山中さんの案内で土佐山を訪れ、鎌倉さんをはじめとする地域の方々にヒアリングを行いながら、地域の暮らしを体験しました。



嫁石梅まつりで鎌倉さんと再会した高野さん。完成した修士論文を鎌倉さんに見てもらい、お礼を伝えることができました♪



嫁石梅まつりの会場で、園主から桃の切り枝をいただいた高野さんは、お住まいの北海道に帰ったあと、ご自宅に桃を大切に飾っています。いただいた当初は「つぼみ」でしたが、現在ではきれいな花を咲かせているそう。「鏡川と北海道をつなぐ思い出は桃の香りになりました」と話す高野さん。高野さんの日常に、鏡川の自然や人との思い出が溶け込んでいます^^



「ぼっちり」がきっかけでこれまで何度も高知市を訪れている「あいのまま」さんは、半年後の高知市納涼花火大会の機会に、また高知市に来てくれるそうです！北海道に帰った「あいのまま」さんは、「高知に帰ろうかなあ。ぼっちりの皆さんに感謝でいっぱいです。ロスが数日続くことは必須です」とのこと。またお会いできるのを楽しみにしています！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android